大雪の麓～ひがしかわ的観光イズム

大雪山を越えるタンチョウ

ここ数年、町内に国の特別天然記念物である「タンチョウ」の飛来を何度か見かけることがあります。タンチョウの生息地は釧路方面に集中していますが、かつては全道に生息していたといいます。明治時代に乱獲や湿地帯の開発などにともない生息数が激減し、大正時代には絶滅したともいわれたこともありましたが、1924年に釧路湿原で十数羽が発見されると、その後保護施策が講じられ1950年代より給餌による保護活動が各地で行われ生息数も増加していきました。

そして今年３月、環境省は個体数が回復してきたことを理由に絶滅危惧種から除外。再発見から100年あまりの保護活動が実り、ついに絶滅危惧種ではなくなりました。とはいえ、絶滅危惧から準絶滅危惧にランクが下がっただけであり、再び絶滅危惧に移行する可能性が高いというラインのため、引き続き保護や注意が必要なレベルです。

個体数は現在2,000羽近くまで増えており、十勝やオホーツク地方、宗谷地方まで生息範囲も広がっていますが、個体数増加にともない、現在の繁殖地の過密化などから生息地を広げている見方もあるといいます。タンチョウは繁殖地と越冬地間を移動するようですが、観測施設「鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ」通信によれば、2021年発信機をつけたタンチョウのルートでは宗谷のサロベツ原野で繁殖した個体がオホーツク海側を遠軽付近まで南下したのち、翌日には阿寒湖上空を飛行しながら鶴居村まで一直線で移動したと記録されていたようです。また2023年には、別の個体ではオホーツク地方の興部町から十勝地方音更町まで1日で移動したようです。通信には「大雪山の東のはずれ、沼の原湿原上空を通るコースを、最大高度1,736m、最速74㎞で飛行した」とあり、大雪山を縦断していったことが分かります。

◀旭岳とタンチョウ（２０１９年秋撮影）

では、町内で見られるタンチョウは大雪山を横断してきたのでしょうか?それはまだ分かりません。しかし、鶴居村までは直線距離で160㎞ほどなので、より高く飛行できるのであれば一直線で飛来してきたかもしれません。または2,000m級の山岳部を迂回する形で、宗谷・オホーツク方面からの南下や、十勝方面からの北上も考えられます。

いずれにしても絶滅危惧から外され、上川地方にも飛来が確認されてきており、近い将来、大雪山麓にタンチョウがいるのが当たり前の風景になるかもしれませんね。

アクティビティ提供専門ショップ「HAC」
㈲アグリテック代表　中田浩康

俳句

道に沿ひ街灯滲む夏の雨　鶴岡真木
若葉風「ボク」から「オレ」へ変声期　高瀬潤
初夏の蛇口つぎつぎ集まる手　八田昌代
月曜日と雨の日嫌い花は葉に　若田郁
静かな山肌に辛夷の白映え　佐々木りえ
著植うる脇で見守る遊び猫　斎藤夕桜
山独活の句う通院バスの中　本田咲
新聞が兜に変わる幼き日　山内みゆ
郵便箱開ければ春がにっこにこ　石澤清宏
潔し散る花びらのカーペット　伊東花風
誰も来ず何処へも行かず昭和の日　紺野桂花

一緒に俳句を楽しみませんか
～みんなが先生でみんなが生徒～
月1回、自由で開かれた句会を開催し、俳句を心から楽しんでいます。

120年の伝統を受け継ぐ
東川町ヌタップ吟社
山内☎82-3142